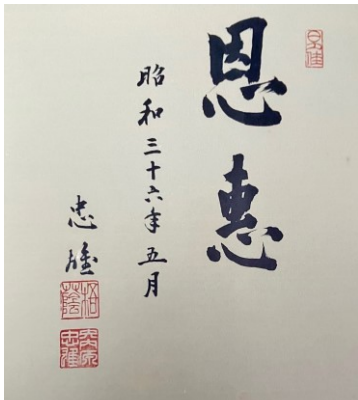


2023年7月31日発行

恩恵を回顧して



矢内原召天後、夫人から送られた色紙

私が住んでいる山形県のこの地は、お米の収穫がない、それは貧しい寒村でしたが、1945年8月の終戦後に米軍基地を経て自衛隊駐屯地となり、果樹園の開拓も進んで小さな町になりました。1956年私が住み始めたころは、茅葺屋根の連なる中に新築の家が建ち、古い因習が根強く残る中にも新しい志向があり、新旧混然としていました。

私の夫小関充の父は、1937年から村で唯一の小さな雑貨店を営みました。充は戦後俄かに客が増えて対応しきれなくなった病弱の父を助けるべく、勤務していた山形電気通信工務局を退職して雑貨屋になりました。勤務時代に矢内原忠雄先生に学ばれた上司の庄司源弥氏から聖書を学び『嘉信』の読者になりました。私も読者でありましたのでお世話いただき、結婚しました。10代の住み込みの店員さんが男女2人ずつ居られました。店は朝5時に開店し農家の方や職人さんが来られます。午後7時に閉店して夕食後は10時過ぎまで商品の値付けをします。明治生まれの家長である父の「商人はかくあるべき」という方針です。

結婚して半年後、矢内原忠雄先生がご訪問くださいました。先生は私に言われました。「道子さんはどんな仕事をしているの」「店で接客したり、配達したりします」「配達もするの」「はい、自転車で」「それで休憩の時間はありますか」「はい。食事の後でお湯を

小関 道子

いただきます。その時間が唯一の休憩時間です」。先生は黙って居られました。そして、お帰りの際に「道子さん、どんな時にもコリント前書13章を思いなさいよ」と言われました。この時の先生の愛に満ちたまなごしを忘れません。

夫と私は社是と入社条件を決めました。「正直に親切に勤勉に几帳面に人の役に立つ店になろう」。「当社では聖書の勉強をしますのでご出席ください。信仰は自由です」。こうして従業員と共に聖書の学びを始めました。初めて聖書を手にする人々ばかりです。

5年後の1961年5月矢内原先生は再びご訪問くださいました。20数人に増えた従業員たちに、私にご教示くださったと同じコリント前書13章をお教えくださいました。やっと一つ二つ覚えた讚美歌をたどたどしく歌う従業員たちとともに歌って下さいました。しかし、この時の先生のご体調は決して良くはありませんでした。静かな低いお声で心を込めてお話しくださる先生のお姿に涙がこぼれました。半年余の後、先生は天に召されました。

私たちの聖書の学びはずっと続けました。政池仁、鈴木弼美、寶田愛、日暮勝英、堤道雄、大江留吉の諸先生方にもお話しいたしました。

1976年、雑貨屋から業態を変更して、ホームセンター1号店を開店し、徐々に山形県内各地に店舗展開を行ないました。したがって全従業員が一堂に会することは無理になりました。そこで社長である夫は、自分の方から店に出向いて聖書のお話をすることにしました。朝礼が始まる8時半から15分間です。休日以外は毎日店を廻り、退任するまで20数年間続けました。従業員たちは真面目に聞きました。

現在は、10代で入社された方も8代になられ、ともに神を賛美しつつ活かされており恩恵を感謝いたします。

(こせき みちこ 山形聖書集會)

目 次

表紙・巻頭言

目次・内村鑑三の言葉

表紙について・発行趣旨……………2

内村鑑三研究セミナー報告……………3

D.C.ベルのもとにあった内村関係の写真……………5

九十九里地域（千葉県山武郡）における
無教会キリスト教……………6

学校・学寮だより……………7

今井館を会場とする音楽会を紹介・

「第35回無教会全国集会2023」のご案内……………10

各地からの報告・

定期集会・特別集会のお知らせ……………11

事務局便り……………15

維持会員募集のお知らせ・編集後記……………16

内村鑑三の言葉

天地の花なる薔薇

其花に伴ふて刺^{とげ}あるは

其、地の産なるの証^{あかし}なり、

其刺に伴ふて花あるは

天の之に宿るの徴^{しるし}なり。

選者注：『聖書之研究』54号（1904年7月）、『内村鑑三全集』12巻、254頁。同誌掲載の「贖罪説と近世思想（1）」の最後の余白に埋め草として小さく記されている（40頁）。地の証^{あかし}として薔薇の花には刺が、刺には天を宿す花が伴う。天地にあるものには、花と刺とがあり、これは「天然詩人内村鑑三」の信仰・天然宇宙でもある。「嗚呼憂に沈むものよ／嗚呼不幸をかこつものよ／嗚呼冀望の失せしものよ／春陽の期近し」（「寒中の木の芽」）。日露戦争開始数カ月後、「平和は地より出ず、天より来る」（「戦時の事業」、同誌、53号）という非戦論者の希望の片鱗を映す「信仰詩篇」である。

（選：NPO法人今井館教友会監事 小林孝吉）

○表紙について

『今井館ニュース』第56号巻頭言は、山形県東根市在住の小関道子さんがお書きくださった。矢内原忠雄の紹介で結婚され、夫の充さんと商家を切り盛りされた道子さんの、恩師との温かい交わりの思い出、そして、小関夫妻の日常における伝道の歩みを、「恩恵」としてお示しくださった。

（C.Y.）



『今井館ニュース』発行趣旨

NPO法人今井館教友会は、キリスト教の精神に基づいて、今井館を維持・管理・運営し、内村鑑三（無教会の提唱者）及び彼につらなる者たちの広範かつ多面的な思想と活動を自ら調査・研究するとともに、他の個人と団体による調査・研究をも奨励・支援し、それら自他の調査・研究成果の社会一般への普及に努めて、正義と隣人愛を基調とする平和的な社会の形成と発展に寄与することを目的とする（定款第3条）。その目的を達成するため、特定非営利活動に係る事業として今井館ニュース発行を通じ「内村鑑三及び彼に連なる人々の思想と活動を調査・研究・発表する事業」を行うものとする（定款第5条3項）。